したが，内容は環境と海藻，あるいは自然生態系における海藻の役割といった面に焦点を合わせた記述が多く，この方面に興味を持つ人や知見を得たい人達には手ごろな読み物となっている．（千原光雄）

□田村道夫：**植物の系統** 222 pp. 1999年．文一総合出版．¥3,800.

著者は1974年に「被子植物の系統」を発表しているほか，系統や進化についての多くの論述がある．近頃は「生物多様性」が陽の目を浴びており，系統の方はDNA系統樹乱発のおかげてお手軽な扱いになり勝ちである．しかしながらブームにまどわされることなく，積み上げられた多方面の業績を冷静に評価して，その時々の世界観を描くことは，自然誌の本筋だと思う．

本書では綱や目単位で，発生や構造を中心とした群の特徴や問題点が述べられており，その間に生活史，陸上植物，維管束，花などを主題にした章立てがなされている．分子系統学の成果については，今後の問題として敢えて触れられていない．著者が解釈しかねているのは，ラカンドニアの花，ボタンの胚発生，ネジバナの受精の三問題であるという．

専門書でも教科書でも参考書でもなく，誰にも読めることを目指して気ままに書いたと前書きにある．本文には見出しを除いて植物の学名が一つも使われておらず，すべて和名か，学名のカナ読みが用いられているのも，そういう配慮に基づくものだろう．学名は巻末の植物名索引で知ることができる．そうは言っても読むにはかなりの下地が必要であるが，多くの示唆を得られる参考書というところだろう．とくに形態や分類の基礎なしに分子系統学を目指す人達には，せめてこのくらいの「系統」の知識は，外群として持ってほしいと思う．白黒写真の出がちょっと悪いのがもったいない．（金井弘夫）

□ Roth I. and Bolzon A. G.: **Argentine Chaco forests, dendrology, tree structure, and economic use** 180 pp. 1997. Gebruder Borntraeger Verlagsbuchhandlung, Berlin. DM164.00.

アルゼンチンのChaco Parkは広大な森林地帯であるが，永年適切な管理がなされず，開発に伴う伐採などで森林破壊がすすんでいる．将来的には半沙漠化する危惧さえ持たれている．Chaco Parkの半乾燥地帯で生育する植物について全体的な特徴，フェノロジー，樹皮と材の解剖学的研究を行い，この地域に生育する植物の特徴を幅広い観点から見ている．扱った種類は17科31種である．特に著者の一人であるRoth博士は植物解剖学の専門家だけあって樹皮と材の解剖の記載は詳細である．このような研究結果をもとに，経済的に有用な植物の見直し，この地域の森林の保全，植林に関する提言を行っている．本書のように形態だけでなく生育地や季節変動をなど植物を幅広い観点から見ることは，植物の形態の進化やその他多くのことを知るうえで非常に重要であると同時に，自然環境保全のための有益な知見が得られるものと考える．（寺林　進）

□岡崎恵視，橋本健一，瀬戸口浩彰：**花の観察学入門** 134 pp. 1999年．培風館．¥1,900.

3章に分かれていて，1.葉から花への進化，2.花の形と適応，3.葉・花・果実の観察となっている．「花は葉から進化した」という命題を基礎にして，それを裏付ける証拠や考え方がいたる所で提示されている．私も観察を指導するとき，「漠然と見るよりは，何か自分で『こうなっている筈だ』という規則を仮定し，それに合っているか否かを見る，という態度の方が発見が多い．」と言うことにしているので，この方針には賛成である．本書は大学の一般課程の学生や，小中学校の理科教師を対象として書かれたもので，材料も入手しやすいものが選ばれている．植物の観察というと，名前をおぼえることに集中しがちで，いきおい珍しい植物だの区別点だのに関心が行ってしまう．しかし教室に限らず，野外でもこういう観点から見ると，どんな普通な植物にも発見があり，自然を見る目がはるかに豊かになるので，一般の人も図鑑と共にこういう本を手にしてほしいものである．とくに観察会の指導者に望みたい．（金井弘夫）